



アース端子はSUS製M4バインドネジで2端子を装備。一方はオーディオ機器に、もう一方はCrystal Eの増設用に使用できる



本機内部のレイヤー構造。従来モデルよりも表面積が1.75倍大きく、各レイヤー間に0.5mmのスペースを設け、面接触を完全回避。レイヤー素材は8層で、「ステンレス(SUS)/黄銅/銅/黄銅/銅/黄銅/銅/黄銅」の構成。本体シャーシはトップカバーがSUS(2mm)→アルミ(2mm)、ボトムシャーシはアルミ(1.5mm)→スチール(2mm)に変更

健康を増進してくれる、いわばサプリメント的な存在だ。広く薦めたいくなるグッズである。

仮想アースの新境地

オーディオ装置の健康を増進
光城精工より仮想アースの最新モデル「Crystal E」が登場した。同モデルは連結式電源タップ「Force barシリーズ」のコンセプトを継承としながらも、その外観からもわかるようにフルモデルチェンジを実現。素材や構造、形状をゼロベースから再検討して生み出されたモデルとなっている。その魅力はどこにあるのか？ 炭山アキラ氏のレポートとともに、開発者である土岐泰義氏へのインタビューも掲載している。



Test by 炭山アキラ Akira Sunayama

KOJO TECHNOLOGY Crystal E



「Crystal E」の紹介ページ

仮想アース ¥31,200(税別)

Specifications

- 構成:仮想アース端子、M4×2端子(ステンレスネジ) ●サイズ:80W×111D×35Hmm(端子や突起物を含まず) ●質量:約775g ●付属品:専用アースケーブル×2本 (RCA-Y端子とY端子-Y端子※いずれも金メッキ仕様で1.2m) ●Y端子サイズ: M6(取り付け推奨ネジサイズM4~6) ●取り扱い:(株)光城精工

銅/黄銅/ステンレスに変更
レイヤーも6から8層に増加

光城精工は、同社の「つないで使える」フォースバー電源ボックス・シリーズに、仮想アース装置を有していたが、このたびの新製品は単体で使えるタイプである。手のひらにスッポリ収まる大きさだが持つとずっしり重く、資料によると異種金属素材の積層はフォースバーと共通だが、銅/黄銅/スチールという構成から、銅/黄銅/ステンレスに変更し、レイヤーも6層から8層に増やされた。結果、表面積も増大しているそう

だ。接続端子は、ケーブルとのより着実な一体化を求めて、プラスドライバーで締め付ける方式になった。端子は2系統あるが、これは2台の製品をつなぐためというより、本機を2基連結して使うためのものとか。今回は試せなかったが、これは高い効果が期待できそうである。

音像がクッキリと浮き立つ
再生限界をグッと押し上げる

わが家のデスクプレーヤーにつないで音を聴いたが、クラシックは最初の音で音場がよくほぐれ、音像がクッキリと浮き立って

くることが分かる。割合に濃厚な震漂う音場だと思っていたのが、霞がすつきり晴れ渡り、隅々まで照明が当たったようなクリアさが感じになる。耳へスルッと入ってくるのだ。ポップスは人工的な音場が遙かに広がり、空間に浮遊する成分が濃くなった。声も余計なメリハリが立たず、ごく自然な表情を聴かせる。

思えば、仮想アース装置もいろいろ聴いてきたものだが、ただ解像感が上がるとか、ノイズフロアが下がるといったものではなく、それぞれに音質傾向があつて面白いものである。エントレックはミニマスがほんのり温かみがあつて、シルバー・ミニマスは一転ヒヤッとするようなクールな音を聴かせる。テロスのGNRは音楽を積極的にガンガン鳴らしてくる方向だ。それらに比べると、このクリスタルEは非常に実直なタイプという印象で、機器の持ち味を保持しつつ、再生限界をグッと押し上げてくれる、そんな頼もしさを感じさせる。昨今流行の超小型アンプくらしいの大きさと、部屋の片隅へ置いていても全然邪魔にならず、それでいて副作用なくオーディオ装置の

【Q4】どんな音質効果が期待できますか？

【A4】発売開始からまだ日が浅いですが、既に購入試聴された方々から、メールや電話等でインプレが上がってきています。これは弊社の見解と一致する部分ですが、まず一聴して音場が広がりますね！S/Nの向上により、スキッとくっきりハッキリなります。ソースに含まれているこれまで聴き取れなかった細かな音が聴き取れるようになります。ただ、弊社ではこれだけに留まらないようにしています。それは、やはりおいしい帯域(中域、中低域)の存在ですね。音場の広がりは爽快感、清涼感を生み出しますが、同時に肉が薄れる傾向にあります。ここは要注意点で、やりすぎると旨味成分が削かれ音楽性が乏しいものになりがちです。その点「Crystal E」はこの旨味成分を残したままスッキリ爽快にしてくれますね。一定の濃さを持ちつつ後味も良い……！何だか旨いラーメンみたいですね(笑)あと、みなさん「このサイズでこの効果!？」と驚かれますね。一見眉唾っぽく思われがちな製品ですが(汗)、スモールなのにビックな働きをしてくれます。

【Q5】最終情報としてカーオーディオ用電源コンディショナ「Pureコンディメンタ」も登場しました。こちらの開発経緯や注目ポイントをお聞かせください。

【A5】弊社では2年ほど前からカーオーディオ分野にも触手を伸ばしました。初めて出した製品はカー用仮想アースのVE-01です。基本的な概念、考え方は同じで、従来モデルのForce barEPをカー向けにモディファイしたものです。カーオーディオ分野ではこれまでボディアースに関する製品が存在しておらず、そこに来てVE-01が投入されたものですから爆発的に売れました。(笑)現在も継続販売しています。ハイブリッドカーやEV車などが広まりつつある昨今において、ご多分に漏れずカーオーディオ分野もまたノイズ対策は最重要課題なのです。むしろホームオーディオ以上なのかも知れません。そこで新たに製品化を進めているのが、新発想コンディショナ「Pureコンディメンタ(Nve-03)」です。本製品はDSPやアンプなどの電源ラインに高周波ノイズの減衰特性に優れたフィルタを配置。ここまでは従来製品にも存在していますが、Nve-03はこのフィルタ機能に先の仮想アース機能が追加されたもので、電源ラインのノイズ抑制をすると同時に、ボディ自体のインピーダンス低減を図り、ボディアースのノイズ抑制も行います。さらに同製品には、仮想アース機能を増大するためVE-01増設用の端子が設けられており、より大きな効果をもたらす製品となっています。

【Q6】実際に導入したい方はどうすればよろしいでしょうか？

【A6】「Nve-03」は6月1日からの発売開始となっております。全国カーオーディオ専門店にてお取り扱いされる予定ですので、ご興味のある方、既に仮想アースVE-01を所有されている方はぜひお問い合わせご予約の程お願い致します。



カーオーディオ用電源コンディショナ「Pureコンディメンタ/Nve-03」(¥39,000・税別)

開発者に訊く!



(株)光城精工、電源事業部部長の土岐泰義氏

【Q1】「クリスタルE」はどんな経緯で開発をすることにしたのでしょうか？

【A1】すでに生産・販売を終了している従来機種(仮想アース:Force barEP)の人気を受け、さらなる音質向上と機能性を高めた製品を市場投入したく、最近展開が始まった弊社電源タップ群のCrystalシリーズの一モデルとして開発をスタートしました。市場では仮想アースの人気が高く、自作される方も多く見受けられますが、アクセサリメーカーがものづくりをするところなんだ!ということもお見せしたかったところですね。ただ、多くの方々に受け入れてもらうためには、やはりコスト意識を高く持つ必要があり、従来モデルのForce barEP同様、ハイコストパフォーマンスというコンセプトを継承した上で行くことは必須でした。

【Q2】「クリスタルE」にはどんな技術が搭載されているのでしょうか?従来モデルとはどこが違うのでしょうか?

【A2】細かいことを言い始めるとキリがありませんで割愛する形にはなりますが、大きくは下記の7点になります。多いですね(笑) ①異金属積層構造の再構築 ②アース端子 ③専用アースケーブル ④機能凝縮 ⑤コスト維持 ⑥音質効果 ⑦デザイン ぜひこの記事や弊社のホームページ等でご確認ください。

【Q3】どんな使い方がお薦めでしょうか?

【A3】従来品のForce barEPと何ら変わるものではありませんが、弊社製仮想アースは金属導体の表面積をとにかく増やし、接続されたオーディオ機器の(高周波に対する)外筐インピーダンスを減らそうというものです。よって、オーディオ機器の外筐が小さく、デジタルノイズなどを発するものに使用すると大きな効果をもたらすものと考えています。「Crystal E」の増設機能を活用するのも良いですね!仮にパワーアンプなどに接続されたい場合、アンプ筐体のサイズが大きいため、「Crystal E」の持っている金属導体の表面積との比率が下がってきます。そこで「Crystal E」を増設することは、比率をアップルすることができるわけです。